

2019. 10. 25

畑 啓之

国政を担う人は強い自制を求められる 逸脱すると一発アウトという仕置きがそこに

国民の上に立つリーダーには強い自制審が求められている。歴史的に起こった不都合な事態の再発を防止するために定められ、必要に応じて強化された幾多のルール（蜘蛛の巣）に引っ掛かれば、政治生命も危なくなる。

確かに、一般国民からはこうあってもらいたいとの願いが込められたルールであることには間違いがない。しかしながら、葉が光の当たる部分（薬効）と影の部分（副作用）のバランスの上に成り立っているように、国のリーダーも本来は長所と短所を比較して、国民に多くの益をもたらす政治を実行できる人物であれば、多少のことには目をつむる必要がある場合もあると私は考える。短所のないリーダーはいないし、失策のないリーダーもいない。

このように言うと、非常識との批判も多く寄せられるものと思うが、何事も程度の問題である。たとえば悪いかもしれないが、一度の些細な交通違反で自動車運転免許証が取り消されるようなことがあれば、社会生活はたちまちに営めなくなり、社会機構そのものが破綻する結果につながる。

令和の恩赦ではないが、救いの道は残しておくべきである。野球の試合でエラーをした選手を即ベンチでは試合が継続できなくなるし、試合の進行とともに選手の実力が順次低下していき、活気のない戦いとなっていくことは容易に想像できる。今回辞任した大臣の実力・手腕はまだ未知数である。政策が効果を発揮するにはある時間が必要である。「大臣をやめさせた」というマスコミや野党議員の自己満足だけが伝わってくるニュースであった。

菅原一秀経産相が辞表提出 寄付・香典めぐる疑惑指摘 2019年10月25日

<https://www.asahi.com/articles/ASMBR736LMBRUTFK01M.html?ref=yahoo>

公職選挙法が禁じる選挙区内での寄付行為をめぐる疑惑が指摘されていた菅原一秀経済産業相（57）は25日午前、首相官邸を訪れ、安倍晋三首相に辞表を提出した。菅原氏側が過去にカニなどを選挙区内の有権者に贈っていた疑惑に加え、週刊文春（電子版）が23日、菅原氏の公設秘書が有権者に香典を渡していたとする記事を掲載していた。